

セッション名：サテライトシンポジウム 第2回不整脈薬物治療サミット
セッションタイトル： 不整脈薬物治療の新たな幕開け
第1部 不整脈治療への新しいアプローチ

座長：小川 聡（国際医療福祉大学三田病院）
小野 克重（大分大学医学部病態生理学講座）

不整脈は心筋の興奮の異常と伝導の異常、更にはその制御機構の異常が重なり、複雑な発症と維持のメカニズムによって成り立つ。例えば先天性QT延長症候群やブルガダ症候群のような単一遺伝子異常に起因する先天性不整脈疾患でも、実際の不整脈の発症は必ずしも生後直後から出現するわけではなく、心筋の何らかの代償機転の破綻に伴って心電現象の異常が現れる。従ってイオンチャネルやトランスポーターの質的および量的異常の正確な認識とその制御機構の関連を明らかにすることで不整脈の理解が深まる。これまでの不整脈の薬物治療は心筋の電気現象を司るイオンチャネルや受容体の遮断による不整脈基質の制御を目的としてきた。しかしながら不整脈基質の中長期的な制御が心臓機能の恒常性の維持に直結するものではないことが近年の報告によって明らかにされている。このシンポジウムは不整脈の発生に関わる基質の異常とその制御の異常という観点に立ち、新しい切り口によって不整脈の全体像を見渡すことを目的として企画された。イオンチャネルや心筋組織の性質に関わる遺伝子異常から、様々な病態における制御の変調に至るまでの新知見を解説して頂き、長期的治療戦略としての不整脈制御の方向性に関して考察を進めたい。